

牧師室から (2022. 8. 21)

「私の魂は主をあがめ、私の霊は救い主である神を喜びたたえます。」(ルカ 1:46, 47)

— 8月15日 ローズンゲン新約聖書から—

これは、アドヴェントやクリスマスの時期によく引用される聖書箇所である。ローズンゲンはその日のみ言葉を籤で引くものであるから、このようになったのかもしれない。それもある意味、主のみ心であろう。

ここで注目したいのは「あがめ」という言葉である。原語のギリシヤ語は「大きくする」(メガルノー;「メガ」というのは今日でも大きいことを表す)が原意である。またラテン語ではマニフィカートというのは周知である。因みに英語でもマグニファイという語がつかわれており、これらもやはり大きくするというのが本来の語義である。一方ドイツ語ではここに「高く上げる」という言葉を使っている。

「大きくする」にせよ「高く上げる」にせよ、そうするためには、自分が小さく、また低くなるということである。しかし自己が肥大化し神様が小さくなってしまいうようならば、あるいは、大上段に構えて神について語っていたりしても、主をあがめるというのは不可能となる。

コロナ感染者がなかなか減少しない中で、また今年もそろそろクリスマスについて考える時期になって来た。今年こそ、コロナ感染を心配せず歌声と共に、喜び祝うクリスマスを迎えたいものである。

これから時折、日毎に与えられたみ言葉に沈潜して、感じたこと考えたことを、この欄に書いていこうと思う。

(鈴木淳一牧師)